石猫宜

うぐひすまち

安しまちの寒寒ふ清水序跋　みなもと

おぼくくうぐひす梅のうち原　長翠

茶の湯者小野の春雪梅の手世　表

庵の水のはをとにけし雪おき　翠

咲うの景霜の葉の風さ紅葉　表

山路はるの光ふ湯しき　、

肩に背板を負ふは以ての外

志きりの墨を負ひくめし時　翠

天竺の志賀の寺とぞ帰りとぞきて　表

松ぬ少く木ぬき宮の利根屋　翠

月ぬ出て東すとぞ山を歩す時　翠

最宮のきぬを掛きて康　翠

宮詣の八田まで来たる意ぬも　表

念仏はぬ少ぬよきの九ぬし　翠

うぬ宮みの菜さめくの長ぬし　翠

ぬぬぬく少く車　ぬく松ぬ　翠

ちぬぬぬの少ぬ志賀ぬく　表

菜綱花ぬて出ぬ子　鶯　翠

毎ぬうぬぬぬ鷺の巣ぬ　翠

ぬぬ日ぬ子ぬ　野山　翠

以ぬ中いさ紙ぬぬめたぬ尾実に　表

蕾つきぬは皆ぬぬや　翠

[illegible]の[illegible]と[illegible]を[illegible]
[illegible]かくす[illegible]の[illegible]角
[illegible]の[illegible]枝の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]白[illegible]切の杏[illegible]
[illegible]すべて居る[illegible]所
小さき八[illegible]
菖蒲 桶の縄つけ[illegible]ん

[illegible]
、
表
、
[illegible]
、
表
、

よく[illegible]人の嘆[illegible]
[illegible]の神[illegible]かけし川[illegible]
神[illegible]の[illegible]
歯の根[illegible]
[illegible]の[illegible]の毛[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]
、
表
、
[illegible]
熟[illegible]

大きゆ笑さ濱し面ゑ梅の風　　刃鳥

面て松野ゆに野雪降ゆて　　長翠

鶯ゆは雪雲霧骨形ゑ春の雪　　〃

小神の志八幾の大すゆ年よゆ星　　鳥

月うらゆ海の梨子とうらゆて

けふを吹けて形のたてむし　　翠

徹きぬ面ゆ形先を面きたて　　鳥

河畑ぼの人の急をさいてのす　　翠

京うへて皐月弟子の祝ゆ婚　　鳥

一面面くらゆて風の色鳥神　　翠

金梨ゆむ紙の秋のこたてて　　鳥

面色も以ゆて海を能風台　　翠

芋堂のけうへらて雲社雪　　〃

形の秋のうゆくしき月　　鳥

[illegible]

翼
鳥
翼
鳥
吉長
渭北
五明
長

[illegible]

北
北
長
北
明
長
北
明
長
北
明

毛ゝく[illegible]の[illegible]の形鎌　助　長
[illegible]落[illegible]の[illegible]ゆめ[illegible]　助
唐の[illegible]の料理の[illegible]　長
[illegible]　明
[illegible]の小笹[illegible]　助
こ[illegible]に[illegible]　長

羽鳥　九
長[illegible]　九
五長　七
閑助　六
五明　五

秋の三井の古国に庵を志ほりて
赤坂も草月のあさの空手哉
川の東みちのく北條の役を
申く渡り

夕梅折りて芭蕉に足たく人哉　芭翁

うたゝふもよしや紫陽花の宿　羅坡

五月のこいはのう襟を画に書す　花蘆
ふあきの蓑笠すかろく生鯛　翁
茶葉せぬうこい秋古さき松の風　坡
稗をうつく殊て加うし落ら人　蘆
大さの縁を画に古壁は豆と稱ま　翁
うつくゞ寒き錢妙梅　坡
川しもの大工もこ孫て後れく　蘆
子等に射せ角界つれの庵に寄る　翁

七條毛屋のうち赤ふの家拾五
いろ〳〵百姓の家　表
陰のあは人　咲の鬼も安陰ふ人を　翌
紙ふきはやかたこふ　懸
ちゆ紙八風ふ吹ちゆ　表
瓦の中を出し　人　翌
月ふ舟の世を時ふの風の音　懸
終ふけん〳〵ふ時ふ来ふ　表

ちふ空をく嵐の音の猶うまを　翌
面ふよせてゆく安面し秋のるす　表
京のへて根の舟のちふ時　表
外の和名ふ意をよすふ　翌
舟〳〵に茶賞は雲の面思ふ　阿
花ふの言ふうし詠　表
松むしを孫生の声を聞ふし　翌
卯雲生弦角を引き海　阿

為減　婦人の月経のこと　表

中ゝ色てまはすへふ的弓　翌

酒をゝ飛る能ふの音家の身おさし　同

秋の夜明ゝ　よみて矣ひし　表

手拭をとすもてもふ西郷ゝ色　翌

昔弱の世し　腰の足曳し　同

妻もちて江戸　よひ　おふ西身ヨ　表

二番さめふ中ゝ実し　芸者　翌

迷ふの中ゝ使くし　紀伊国の雲　同

原氏色ゝ者の　義ふの　表

長屋十二句

星球　六句

みち長十二句

まゝ河　六句

家々家の山ひの尾ぶ指引う　羽鳥

紫ゆすはゝの小夜時雨して　士朗

山ちるの行末ゆ月や残ふん　岳路

野毛の志ゝ庵ふ蔦の香　盛考

色もむゝ抜て退ふ松のしハ　朗

きのふ枝ゝ人ゝハ恋し　路

時雨の佛弟ゆ石の手ゝ　考

後ゝ徒弟志めふ梅ほし　朗

和のもゝ山ゝかゝに時ふ　路

鏡の浦しき山ゆまゝ雲　考

心くふ面ふ荒ふ面の板ふさ　朗

四海とのはふ星嶽弟宮　路

袁史鄙のちゆふつゝき月弟友　考

中原ふ毛ふ面ゆて面ふ姫秋の日　朗

[illegible]の[illegible]を押[illegible]和[illegible]也　船
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]しふ[illegible]も　き
[illegible]の[illegible]尼[illegible]の[illegible]朗
[illegible]ゆ[illegible]　船
[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]ものの[illegible]　長[illegible]
[illegible]勢の[illegible]を[illegible]
[illegible]の[illegible]志の[illegible]　爲
[illegible]百合の[illegible]

英[illegible]画[illegible]　翠
白[illegible]の[illegible]　爲
麻[illegible]の[illegible]の[illegible]　爲
[illegible]の[illegible]の[illegible]　爲
大の[illegible]餅の[illegible]月の[illegible]　翠
[illegible]を[illegible]　爲
[illegible]を[illegible]腸[illegible]　爲
[illegible]時を[illegible]石動　爲

[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]を　[illegible]
[illegible]の角[illegible]の[illegible]、
[illegible]の[illegible]を[illegible]の思ひ　[illegible]
二日[illegible]し　[illegible]のうきを[illegible]、
[illegible]を[illegible]の思ひ　[illegible]
[illegible]帰らう[illegible]の付しを　[illegible]　[illegible]

[illegible]　九日
[illegible]　六日
[illegible]　六日
[illegible]　五日
[illegible]　九日
[illegible]　一日

長歌

春霞たなびく山に雁を聞くかりがねとなりてやくらん　月居

春ゆくる花の雲とやなるらん　〃

月のあゆみも　柳ゆるめて　旧國

人さへ寄居のあるじの音　〃

ゆかしきまでに花とすぶい　居

鏡山をもあかぬ色にそめなして紅葉流し　居

敵よりも隠れおくふきりんを　國

さらぬ山の月をおくる様なる　居

仏殿に風呂焚世くる助の富　國

忘れかねる秋のゆめを袈裟に　居

姫ぎぬに紅毒むる絵よしの郭　國

月の宵さしめて秋のしるべあり　居

夢の間さへ世の因縁　國

よもやせハをはかりかるるほくらふも　居
暮ハきけハ明ハいかもきく　國
伊勢なるの毒を鈴をふかくに
野ハたんを飽くまで　居
ゆ鈴なのはるをくにつまのき　原化
ふれき　春宿のかふ書ちらあ
阿あをををもれけしを鶯のけ高　翠
あ〳〵称は古ほしは遠代

筑波なるふ恵の心屋と木陰さもも　化
手向の霧ゆを手葉ゆ人八面地
鶯の木のはをしるふ風の呼　翠
よるまて地のるもくことのも
ゆ乐ゆ乐喰ゆ生あつまる　化
もとあるし蕨のるほ乐
腰の時ゆ月の宝我しる
永のるこまも秋ハ年ゆ　翠

面てのけしきの翠りるのかけ　化
隠り面てたまふ弟の描き堤　翠
陽炎に白き芦ぬ袋たくおの日和　化
夏ゐるせたし風きたるる風　翠
るきの雨に小菊も霧の雫ゆ　化
初中秋の十四夜の月の影　翠

小みの庵記

あるを家友長翠の心ほそ〳〵新すみ面川
の清く流れの堤を面に芝生の寺とてるるに
ホ[illegible]と船ふ寺の十四側の元
小〳〵引入面陸奥の[illegible]を去る一日
三月只和の以面に[illegible]に
古枝坡の刃鳥の[illegible]鶯原命を傷り思ひ
[illegible]鶯鳴古世槌の采儀の[illegible]

[illegible]

行脚[illegible]山あり[illegible]城中樣もこみの[illegible]

わ[illegible]山あり[illegible]古仏の[illegible]

やう[illegible]涙す[illegible]現外の文臺[illegible]

[illegible]の[illegible]

私[illegible]ぬ[illegible]

眠藏[illegible]の別当[illegible]

味噌桶樽の中より取出し油[illegible]渠[illegible]

すぢ[illegible]の四[illegible]中板[illegible]

是ハ[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

建長寺の[illegible]

吹上の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]かけめ赤城[illegible]我た
[illegible]の[illegible]に戊亥[illegible]嵐[illegible]
[illegible]葉の小薄を糊[illegible]およそ秋の山
の[illegible]の[illegible]くら[illegible]
[illegible]吹こし[illegible]
[illegible]松人丸の雲も帝の
錦も皆[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

さぬもさゝ野の芝の根がきの井を導者
けハみなゝ野の伏象をもちゝ孫〳〵人の祖の
ゑもゆかく和意暗志はく吉つま言の恨
空変白し毎又かの蓋弁の景趣を備へし
社又称ゝ中ハ変摺中補陀落ゑ寡ゝに
ゑもこゝ梅ゝ大菩薩志へ小御時形人と甲
隠軍の手を宿社ゝ和ゝ古作詞のちい
さ記耳ゑも少土ゑもゑ山の石神ゑ城

月弟の冥加やゝ小ゝ加ゝけ人宗祇法師の乃つ
ゝ志みゝも安つ加ゝ俗志へを計ゑ法ゝ師志の
ゝし法所の伝物古かゑ面〳〵けゆく社又弥
の松ゝ小ゝ安ゝ面〳〵く石所ゝ定ゝ志ゝ
祝古よみ志ゝゝ京へ志ゝ神ゝ爪ゝ八山の心
松のおゝ和ゝ社ゝの神ゝ志ゝ爪ゝ山の心
時寛政ハ甲寅志ゝ海晏禅刹の梶林ゑ
九丈八尺の聖ゝ城城ゝ張面ゝ海ゝ世し

年のすゑ移りかはりしかるべき人の子も世話なる
の松とかもりて世間がるる孫八七珍萬
宝高位重職豈得るすの幸を待さらんや
平棋の勘能書画の筆妙又さの長き命を
かけて修しるぬこるるのさへるるあきやとみる
さらるるやもひ面白ふ思ふ衰老老
しく嚴青の骨とも面孫八凡慮もとよる
言圓の筆を志ふもて時序以何志す詠てらまの

延命強欲の願望ばそんよりさふ変ふ
得るふ徳を落ふけるも志何ふにあを
ものも用けく楽ものの命を保んす
ふにのふ足の安ふんやさふ徳ふ男す
生涯の志かも病好くてやまものく
修せすそ以面
この世にしるのしくあはこんせよい
むしにるるもの変ハ世を好ん

加賀伊の篤人の詠吉野紀行の跡をたぬ
て何もまた斎宮長翠ら庵の人々あるべし
まさぬ中よし桜陰茶の家の下野を
陸奥川もまほろぼしを野ら

村上忠
菅原孝標

九右日記

あるべき出羽の野の萩の庵 大坂 交國
まるの宮ら人て庵ら" 曼隠
横風まる庵るの若葉の野 仙台 紙和
いるよ花まる秋と上の野 江戸 一憲
蒲の穂もほくまに見ぬまる" 梅文
秋ら中机紙ら原ちまし 仙台 梅志
菅の実ら日のまする中の山田 " 布瑞

きて柳絮に花ちるかとまがふ雪　イヨ　樗雪

日の面計の月ほのぼのとさしこめる雪のふる　芳成　和柳

江の潮の浮ホうこそすめ中の中秋　中秋　素東

今年の秋ふるふ雪の時うけて　ロメルセ　えいは

暁の月とのせて雪の橋のしも　中秋　はく

霧の夏や横雲の雲のむ絵とぞ　京極

日のかけの柳ちりはしめてふる雪　仙京　芳志

出て後やちるや山の梅もとき

、

出て後ちるや山の雪　大阪　魯隠

雪の夜ふる風のこほりの雪　長富

河きうやちるの雪の不二の雪

花ちるハちるふ二月の梅とまがふ　伏見　あ丸

うるうなるの月ちるあたるふの雪　方笑

心ふるや外ちる雪　京　月峰

秋さびしやかしんの秋ふん　墨古

ちるうるうる雪やかしんの雪　水口　屋河

ゆふ風に秋の物思ふ　京　定雅
物思ふ人の心や秋の山　大坂　丁江
是ぞこの名にしおはばあらしの雲　伏見　梅便
あらしにくきたちたつんや秋の雲　蒼虹
雲ちぬしらぬ人の心ハ　近江　亜僕
帰るさの雲ぬぎ捨ぶる月ぞ　大津　五葉
雲ぬぎ捨ぶる月ぞ　〃　碧芭
ゆく人をうきハ雲ぬぎ捨ぶる　紀後　鶯石

雲の根をぬぎ捨てぬ秋をたのしむ　名古　嵩石
川風やたちぶを是ぞ小雨の夜　〃　詩舟
ぬぎ捨ぶる　〃　雪人
ぬの間も案ぬぎの立ぬ宿ぬ　〃　彎友
ぬぎ捨ぶる以前ぬ事の葉ぬ　尾張　於裘
ぬぎ捨ぶる水鼓の月ぬ　仙台　蛙眼
鮎ぬぎ捨ぶる月ぬ　〃　猪二
人ぬぎ捨ぶる月ぬ　〃　簾之

了童　仙台
北人　〃
北水　〃
御二　〃
汀波　〃
梅若　武
文蔵　江戸
菜山　筑前

柏翠　仙台
小海　ナコヤ
指笠　相中
百項　柏京
石願　信中
石棠　京
山夕　八幡山
五嶺　〃

秋風ふき吹まけ〳〵まき荒野哉。　三通

雁の音ふるさとの海〳〵き山路哉　おき

蔦紅葉やあらぬも秋の原やき　青　赤坂

秋のまこもの葉揃　我まき〳〵　羽波　武蔵

まつ風ふき吹こ海まき〳〵　廣千賀　大坂　鈍古

よき〳〵家ふ這入らあき相火　挑。　馬印

追出〳〵きすもせんこの月。　友國

けあ〳〵ま荒あはしの　みこもつ

、

芦葉ふ吹しうけあふ小屋代　武　草坡

松以鈴〳〵きまハ留の舟ふ〳〵ハ　青鷺

ほ〳〵きまき松平に長き風ふ〳〵系　竹水

大原の雲井の雁も鳴きゆけば　長翠

松ハ男のなのるすき　佳

雲表

ふるさとの山のもゆる歩をとゞめ

翠

かゝるまふ橋り河えめつゝ川

表

むつゝふ雲ゝ宮ゝ月の新

翠

戦もれたゝぬ宮しの秋ふる

表

野のこゝと井ゝ錆つく盃ゝ

表

志のゝ如　波ゝ寄ゝ松ゝふ聊ゝ

翠

ゝ雲ゝの岩ゝ岩の独とかゝしかな

表

ゝ入梅ゝ雲ゝ伊ゝ勢ゝ海ゝ川

翠

赤ゝ彩ふ芋ゝも彩ゝや庭ゝ章ゝ

表

乙ゝるのゝ秋ゝを掛ゝ石ゝ塔

翠

著のゝ目のゝ雲ゝ雲ゝの八ゝ天ゝ中ゝ

表

雷つゝのゝ雲ゝ雲ゝ雨ゝ降ゝ

翠

呼吸ハ一言ハ無之難退之　表
実ニ恐し　林の手猶我を
志こゝ雲霧ニ隔てを
神のまゝ　中東の大海こゝ　翌
ゝ我　非の手紙ハ小策をゝ新し
八重の心をこゝ世忘こゝ　表
係　絵も以ゝ　合墨の海ゝ紙　翌
雲ゝ　雲ゝ　戸城　表

支ゝの東国の雲ハし　翌
志　一生ゝ実　風のゝ　表
国　職ゝ　一国ゝ八　翌
様ゝ　ゝ　雲ゝ　表
人　秋　見ゝハ秋　翌
秋ゝ　ゝ　海ゝ　月　表
期　ハ　ゝ海ゝ　翌
餘ゝ　ゝ雲ゝ　表

[illegible]ぬ大徳も　素

初葉はやしけハたれかをしこ　翠

[illegible]のこ[illegible]にさかり　素

[illegible]かゝのもとすかゝのさ　翠

是何きはよハたゝぬ[illegible]の　素

[illegible]屋のやもり　翠

[illegible]川　西の[illegible]ふ

素是[illegible]の[illegible]

几中の尾ふ不角矣[illegible]

[illegible]足[illegible]の[illegible]ふ[illegible]

[illegible]月の[illegible]

[illegible]屋と[illegible]

素溪

[illegible]六

[illegible]

几外

李[illegible]

羽[illegible]

[illegible]　越六
[illegible]　素溪
[illegible]　几外
[illegible]　鶚秀
[illegible]　羽鳥
[illegible]　李岱
[illegible]　素溪
[illegible]　越六

[illegible]　鶚秀
[illegible]　几外
[illegible]　李岱
[illegible]　羽鳥
[illegible]　越六
[illegible]　素溪
[illegible]　几外
[illegible]　鶚秀

彩菜に松風落て出せ汁を　　双烏
眺かしろ姫　脂も川て多田川　　李明
ひきハの顔とつ雷河に飛ぶ　　素溪
燕にもふる飛　飛しき志賀ぬ　　拙六
多千歳の菓子に俳諧を加へまして　　谿秀
里の者青に楽の占きく　　几外
信夫里し　雁かゆる暮の月　　李明
鶉　鶉ふや　しりのはふた人志賀　　双烏

年六本実　鶴まる多ふ　小かりくさ　　拙六
久保と河けてふたるふ　深　坊　　素溪
思ふにおもたぬ　陳峯にかゝる合　　几外
芦の生まる川の　鷺信の白ひや　　谿秀
宋廣に源氏くまく多ふ筆　暦　　双烏
蝶々も　津々宮て毛の気　口んとさち　　李明

苗ゝゆふ吉ゝ為ゝ　　帰田川　　みち長

抑ゝらゝ　　ゝ　　長翠

雲間さの雲見の上を　　表

雲ふてゝも安ゝ　　翠

風さたく霜厳ニ　　表

雁を祝ふ　　翠

知ゝ知の雲よゝ家ゝ　　表

ものゝ　　翠

にゝゝ　　表

みゝ　　翠

帰ゝゝ　　表

吉の鶯　　翠

中めゝ　　表

ひのゝ　　翠

　　ゝ　　翠

[illegible]　　長
[illegible]　　賀
[illegible]　　長
[illegible]　　賀

[illegible]　　長賀

[illegible]　　耳吉
[illegible]　　志秀
[illegible]　　繁孟
[illegible]　　吉
[illegible]　　秀

恋の道を極めし人の心も志るしなれ　　翁

憂き世隅田川の水の底かさなく　　翁

氷ふる夜の月のさゆさ月の色　　青

天恵形を色に顕す絵　　吉

忘れ草はん筑紫の雲の状　　龍

たつ財を志す侍る通ひよ　　青

鶏形けるを形を振ふ仲の人　　吉

れものいみるを人のなく面白　　龍

雪吹ふ大事のみけりに書　　翁

約束ふ雪ふる酒を酔計星　　青

月毎に雪ふる彼方氏　　龍

雪あるを梅を風つ見し　　吉

花以て安の法に風光を　　森先

雪ふ降を世ふ面ふ新月の影　　素太

おもんを形ふ面ふ毛けの石　　素元

俳諧の道の称た嘉し　　地文

四隣より行基菩提を祈願さる

凍てるのしぬこそ乳ぬく　着東

病猫を見て菩提をかなしみ　風泉

志の姿の里より仮の秋もり　梓秋

四月の嵐かな星に鐘鳴り　志朔

夏かくまでも死ぬ人を誘ふ　太朔

蝸牛の扉して飛し蛍ト鉄　泉路

扇の絵まる鉄の河童し　東雲

山秀

面夫る扇はのこれも東のこの家　九十

枕もとかかる河鳴のひき臍　浮友

家穂の菊見風を矣見ぬ　蝸牛

ちり徒面ふまふ風の花雲　相祖

古徳利何の役もなかとも　流水

けしきを見るや岩の隙　執筆

新月や星の白雲夫角かな　完来

葉蘇の雲の人ゝ雲はく　長翠

秋の戸ゝ鶏服形ふ雪きへて　〃

市の街ゝ日八面けゝ升星　来

面きとたゝ峰とゝもとの風蓋き　〃

ゝ面きゝ雲こきはゝ　紅翠

雲蘇の孫上手の三ゝ大星　翠

かゝゝ日神も八家の結奉　来

百年きゝ古家部ゝ奉ゝ　翠

知日のゝきの名を安のゝ時　来

武人ゝ戦嗜ゝ勝のゝはくゝく　翠

湖ゝ我ゝ行ゝ孫陀の法　同　来

氷ゝぬ陽陰日ゝの月新　翠

冬の野ゝあもゝ松雪中陽　来

魚の石の苔人にくきを絡ふ書て　翌

拾遺へれく家宋を志くしけ家　紫中

奥原きる孫の海ハきくる記き

、

爭欣を食くくるをぬく　翌

むくし鄭ハ多のくへまてくち嘉　中

空月ハ泥き色竹目狩をくう　翌

白鑒霜のをくに謎のほくけ鯉　中

牛蒡の紙る曲竹めくる歌　翌

みの称は面まも多ぬ弱みて　中

諸の与者と人り与くくら蕊　翌

吾野ふ海ふも欲のをもけを　中

家つきこほを徒のうまけもの

、

拾こくの月り嘘をくをを字　翌

弱ハ穂改をやもくまつぶん　中

赤ふ蕪の心をまくしたくを的　翌

緒野き赤夜を流を門川　中

日よハ十日志の姫ゆゑのもうしなす　翠
鶯　書き　ゝ　ゝ　ゝ　つまるゆ　中
ほのゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　たこ　浮　翠
夢　姫　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　中
家　ゝ　ゝ　ゝ　の　的　射　ゝ　毎　の　中　翠
撥　年　ゝ　ゝ　姫　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　中

雪　雲　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　月居
白　風　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　月　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　羽鳥
木　寺　の　梨　ゝ　ゝ　弓　張　ゝ　ゝ　ゝ　眉山
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　居
ゝ　ゝ　の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　鳥
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　山

居

鳥

山

居

鳥

山

居

鳥

山

鳥

山

雪の松や繰りてとれく角力取　長翠

岩間うゑふ姫ゆの竈馬　大樗

天恵汲ちき紀氣茂かくせる　翠

おもゆるへはの紀ぬ霸王蕎　樗

掃ちき二月うゑのおはゑのけ　翠

田喰きくれうゑしまうせん　樗

雪宜見の蕃尺河面を以ゑあきし　翠

安面石をゆうかきれく計を　樗

深しけう面の姫まつく足のう衣　翠

矣紀上石の宮うあき落　樗

押紀雨乙雨くはこのさ紀う松　翠

姫姫はく月う播こ路　樗

掃くき紀烏掃の茎ゆう風紀えし　翠

霧泉沖ハ秋雪の紀る屋し　樗

肩のほのきのくれの何ぞ埼遠　翠
ゆめのいたゝ井うゝ棒鮫とき京　樗
ぞこてゝゝふ見なてゝ京櫛たゝ北　翠
ゝゝの耳　うゝのきたゝふのうゝ　樗
すのゝゝて寒うゝきゝ　小山伏　越六
胡雪さてふもの　藤ハ京しみ　双鳥
神ひけハ雁ゝかゝ京ゝ京毛　、
ゝのきつめ角き　脚さしうゝ翁　六

撲雲の　湖を鶯のゝ京ゝ　伊浦
都のゝきき入　梅の八ゝ山　、
京肩ゝ孫ゝゝ　牛角京ゝ　六
地ゝを法京ゝ毛京ゝ　鳥
かんゝぞ思ゝ　潮ゝ和月　、
つきゝの　弧ゝ志ほゝん　六
ゝゝゝ孫ゝひきゝ角京古　浦
陸京　大工の京やきゝよの京　一

言秋の羽子おしまて添つけハ　六

子を産るの竹繰くとしても　浦

隆さしよ人足居のこゝ居を野よみ　鳥

ひとり息あ国ふ閨の戸うき　六

無ニ行湯入居を残婦るまふて　浦

こまりさきおの手にて　晩鐘　鳥

雪の世を浮ゝ浮せや根をゆらて　月居

ゑ飛雀ちゝまさ魚に噛まれし　麻古

たゝかひゝ婦紺緒抜小袴に　双鳥

余不寒き柳てくゝにま柳　其成

鬱せぬ里の名のゝ月おほし　古

西り十ゟに蝶のくま計も　居

引汐の陣の船漕ぎ標結ふ　成
人の扇も濡つ風吹く　烏
ゆゆしきほしゝの白絣　居
遠里小野ハ好のもやきこゝ　古
和の名所を言あらたゝせ指も　烏
恋こゝ誘も夫男さて事ぬ　成
ゑやく〳〵ゆゝ撥陸里の里へ物　古
事あき出ゝ四ふ標中ゝ月　居

行ハゝ船初屋かゝまゝ　成
ゝ出ゝ打ゝゝ　烏
折ゝ安ゝ野風ゝ潟ゝ萩のゝ　居
家屋貴ゝ小し　古
蘇ふ藤を陣ゝの　是生
屋ゝ見ゝ尺ゝ安ゝ　長雪
原風の春ゝ柱ふ　異山
取事川ゝ四ふ菜種十石　百几

文祥の称賞する所なるを
傷弱をうらむる立まさるかや
みちのくに潟の中にまも咲あり
人の踏むの足も堅潟にて
安部の孤城なりしかの中山
絲 紙 麦 堅 堅 るくよの大を称
古風の景色安部の夕月夜
麦ふの堅 潟 ふ 堅 潟 に

藤波
菊隈
長夏
是生
遠望
提山
百几
藤波

賽の目もまるす潟の酔の法名堅
風の浦四方 熊手市 角川
泉の国 吉野の山大井の保賀元
宋 如 堅 宋 堅 潟 ものいはし
年の戸の頭 何の影も張てあふ
提 校 ほ ほ し き

提の藤

菊隈
長夏
提山
遠望
是生
百几

志ぐれや浦なるさはの浦の家　長翠

吹こみ風の木の葉ちらす庵　素徳

鼻先を赤くすけし夏帷子　吟々

なるの花見る眼すゝしき　素徳

夕顔の花の重もちのあ月　〃

川よりぬけし丸き雲　吟々

人並の弱腰なるも仮ごゝろ　〃

原根かゝる面影も恋　素徳

影書て糸瓜の名を送る秋　吟々

ちゝ蔵屋の類ひつき　素徳

仮名てたゞ月を見る　長翠

陸奥筆に以き姿古　素徳

新ら糸瓜なる以毛の雲　吟々

裕の粘の赤へ雲ゆき　素徳

内裏にて神の古圖をかけてあるを
ながめて　のもとのうしの日
毎の吉凶をあらためて
味ひすぐるを書てこれを紙鳶
戸を明てゐるを宿を門屋居
人を通さは三味線をひく
仇らしや猫をたくみ仏の祇をあき
藤袴のをりを服つのまの

唄く　奇遊　太朗　唄く　太布　長袋　古布　古朗

三尺の安猫まをこそ蛇こしき
此金野をたゝし不二の下の人
さるゝ小判をけ泉盗人等
こゝの中蔵にハきゆる勝姫
摺木を猫にしるふ嵐の尾
粥彼屋をたゝ嚔をすゝ
山伏のひよ詩をゆ中月のみ
京の人京の事の乗くるけこ

古布　古仙　古布　古朗　古布　古仙　古布　長袋

陸奥の国ゆめやかしらの秋の暮　古布

卯の刻の月の残りかすかなる　古仙

寝ぬるに秋の夜の月の残りけり　古布

いのちかけて稲刈見る哀　古朗

ごんごんと上野の鐘も秋の日　古仙

れいれいと物さびのふ四季の音　孰峯

捨て行のけちかふ雁あの北へ　双鳥

西月ら山小ぶりの雨　巣兆

ちらちらぬ枝の秋ハにくまれて　茶青

帰ふも皆野辺の道　菅之

二折ほどよき月の芦屋風　兆

ぬるのうたてやの逝ふん　鳥

[illegible]の[illegible]澤居のうぐひすみ　三
せゝらぎて小姫[illegible]　袁
[illegible]の[illegible]　烏
中[illegible]し園の[illegible]　稲荷　北
[illegible]人[illegible]　袁
舟の[illegible]　烏
[illegible]の[illegible]　北
雪[illegible]　袁

[illegible]の[illegible]　烏
[illegible]　北
月[illegible]の[illegible]山　袁
おほ[illegible]　烏
[illegible]　三
[illegible]　袁
降[illegible]　烏
[illegible]　三

文月や安けき夕ぎりの雲　北

面影の昔ぶりなる昼月の　烏

東屋に言ふ安面通ひ止めとも　袁

身の那こらの世とうらぶれし　三

濁るなる江のかけて流れ来る筏　烏

志ぐるるや去ぐんの雲の稲妻　北

猟へのるすの猟やとりの世浮　袁

宇佐の小橋のこの京此こ浮　三

傘の安らまのうぐ降ぶる中　烏

唐詩講すぶ南郭の斬　袁

波世古夫の書ハくとよるすぶ　三

雲ぐるめらふ岸のうぐ和　烏

天ぐへ咲ぐ海ぐ浜ぐ引ぐ　袁

長深ぐまぐるぐ行ぐくぐん　三

双鳥 十一句
昌黎 七、
李長吉 十、
高三 八、

被別墅交加考訂而著述以成矣曾設
小宴而屬酌而亦無器謂之酩神之酒
等此日大圓甘雲孤寂雀合聲寒積自
樂雪於是志操慨然頻操筆獨畫千
吻黃〻滴字吐噦〻和調神亦記拙句
與 跋終

被別墅交加考訂而著述以成矣曾設
小宴而屬酌而亦無器謂之酩神之酒
等此日大圓甘雲孤寂寥寂精自
樂焉於是志操慨然頻操筆彷彿畫干
吻黃之淳字吐噗之和調神亦記拙而
與 跋終

蕉門俳諧書林
京三条通寺町西江入ル
菊舍太兵衛